

令和6年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

理念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる笑顔が溢れる施設を目指します。

基本方針

少子高齢化が益々進む中、楽しみや生きがいをもって生活が送れる環境を大切に、限られた時間の中で、人々がお互いを支え合い、生きがいを感じられる空間を確保し、利用者に寄り添った笑顔が絶えない楽園として、時代の流れに沿って対応できる組織を構築する。

事業計画

(1) 経営基盤

地域における活動拠点として、介護サービスの提供を主体とした経営を軸に、中長期的な計画を視野に入れて財源を確保し、地域の高齢者の特性に応じた活動拠点とする。

(2) 事業運営

介護保険制度改正による事業運営を主体に、利用者が有する能力に応じて日常生活が送れ、心身の安定や安全面に配慮した環境に整備し、元気に明るく楽しいサービスを軸に利用者の視点を取り入れ、共に生きがいを感じられる寄り添ったケアを支援していく。

(3) 設備管理

日常業務に支障をきたさないよう、日頃から建物や設備の点検を行い、経年劣化等により設備更新が必要な部分については、将来を見据えた総合的な判断を踏まえ、臨機応変に業務の効率化を図る機器等への更新を実施できるよう、事業者との連携に努め管理する。

(4) 人材育成

近年の当施設の平均勤続年数は約11.1年で職員定着率は良いが、平均年齢は46.2歳と上昇傾向となっている。施設内では研修や勉強会等の学びの場を定期的を実施し、各委員会では考察力や思考力を高めて次世代の能力開発に取り組んでおり、未来を見据えて新規採用や既存職員の自己啓発部分にも着眼し、幅広い分野の育成に取り組む。

(5) 地域活動

高齢者が住み慣れた場所で、いつまでも自分らしい在宅生活が続けられるよう、心身の状況を踏まえたサービスの紹介や相談をはじめ、地域における社会資源やインフォーマルサービス等の活用を促し、新たな高齢者社会に向けた活動を関係機関と連携を図る。

特別養護老人ホーム 九十九園（介護老人福祉施設）

ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 38 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、
介護支援専門員、管理栄養士、医師（嘱託）
- 3 事業運営
 - (1) 利用者に必要な日常生活支援、健康管理及び機能訓練等を行う事により、利用者の有する能力に応じて、自立した日常生活が営めるよう、介護職員を中心に、多職種間の連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
 - (2) 住み慣れた在宅での生活が続けられるよう、利用者の生活習慣を大切に、心身共に快適な生活の場として過ごせる環境を提供する。
- 4 基本計画
 - (1) 限られた施設生活の中でも、楽しみを感じたり気分転換が図れるような活動を継続して実施し、楽しみのある笑顔で過ごせる環境を作っていく。
 - (2) 円滑な業務の進行を熟す最中でも、利用者への明るく丁寧な声かけを行い、職員が積極的にコミュニケーションを図り、活気ある現場の雰囲気を作る。
- 5 基本姿勢
 - (1) 日々のレクリエーションや各種行事以外の空いた時間帯でも、利用者との関わりを大切に、短時間でも楽しみが持てる余暇活動を提供する。
 - (2) 元気な挨拶や声かけなど、利用者への丁寧な基本的接遇を大切に、利用者にとって、居心地の良い安心で安楽な空間を大切に支援する。
- 6 資質向上
 - ① 日常業務の中で介助方法だけでなく、なぜそうするのかを根拠だてて理解できるよう、助言や指導を日常的に実施することで、職員の意識改革を図る。
 - ② 決められた業務を淡々とこなす事だけではなく、全体で物事に取り組む意識を持ちながら、個別に関われる時間を捻出して、利用者本位の支援に努める。
 - ③ 普段とは少し違うという些細な気付きを、多職種間で情報を共有することで、摂食機能低下のある方、認知症の進行で食事の認識が低下している方、看取りに近い方など、さまざまな幅広いケースの早期発見に繋げていく。
 - ④ 介護技術や知識向上の為、施設内研修や勉強会への積極的な参加を促し、学びの場を通じて物事を考え、定期的に振り返る機会を設ける事で、職員のスキルアップを図り、多方面の視点からの的確な判断を下せる職員を育成する。

ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営
高齢者の特性に配慮した住みよい日常生活に必要な住居を提供し、談話スペースを設けた場所での交流を通じて、利用者が安心して明るく楽しみをもつて自立した生活が営めるように支援する。
- 4 基本計画
利用者の状態に合わせた介護サービスの提案や余暇活動を定期的に行い、意欲的かつ活動的な日常生活が送れるような支援に努める。
- 5 基本姿勢
自立支援を念頭に日々の状態観察や把握に努め、日々の関わりを通じて信頼関係を築き、心身不安定の際には寄り添い心身の安定を図る。
- 6 資質向上
 - ① 利用者の話に傾聴し、入居者間のトラブルを把握する事で信頼関係を築く。
 - ② ADL・QOLの維持、向上に努め、家族や他職種との連携を図り、介護サービスの利用を含めた支援を行っていく。

デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 15 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営
在宅での生活を中心とする高齢者が、施設に通うことで生活の維持や自立を助長し、社会的孤立感の解消を図り、自己の楽しみや交流を深める。
- 4 基本計画
利用者のニーズに応じた流れを保ち、可能な事には積極的に取り組み、できている事にも改善点が無いかを考え、利用者個々に寄り添ったケアや楽しみ作りを念頭に、利用者が安全に安心して過ごせるサービスを提供する。
- 5 基本姿勢
日々の情報収集から他者交流が促進される座席環境を整え、利用者の興味や意欲の増進に繋がるレクリエーション活動等を充実させ、利用者と共に楽しみ関わる時間を有効に活用し、利用者の満足度を高めていく。
- 6 資質向上
 - ① 利用者が参加したくなる活動をバランスよく取り入れ、メリハリのあるサービスを提供し、優先順位を付け安全面に配慮して対応する習慣をつける。
 - ② 日々の指導や勉強会や研修等を通じてレベルアップを図り、高齢者の心身状況に応じた介護ができるように、よりの確な判断や根拠のある考えを念頭に、一人ひとりが共通認識を持って、行動できる人材教育をしていく。

九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者等の紹介やサービス提供に関する連絡や調整を行う。
- 3 基本計画
変わりゆく介護保険制度の理解を深め、制度改正への敏速な対応を行いスムーズに移行できるように援助を行っていく。
- 4 基本姿勢
主治医や相談員をはじめ関係機関と密に連携を図り、病状に対しての知識を深め、職員間で情報を共有しサービスの向上を図っていく。
- 5 資質向上
 - ① 近隣の事業所の空き情報等を把握し、感染症等の問題から一時的に事業所が閉鎖した場合でも、必要に応じて臨機応変に対応できる体制にしていける。
 - ② 集団指導や研修等に参加することにより、改正後の介護保険制度や最新情報を理解し、職員会議にて共有する事で、個々のスキルアップを図っていく。

在宅介護支援センター九十九園（窓口相談事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
京田辺市包括支援センターからの委託を受け、地域の福祉サービスの提案や支援を行い、在宅生活をされている高齢者の窓口相談所として活動する。
- 3 基本計画
利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスの紹介や相談援助などの支援を行い、いつまでも自分らしい在宅生活が続けられるような援助に努める。
- 3 基本姿勢
介護保険制度が複雑になり、利用者や家族の理解が乏しく不安な部分について、迅速な対応を図り、在宅生活を支える地域福祉サービスの提案を行う。
- 4 資質向上
 - ① 地域包括支援センターとの連携を図り、介護保険の申請手続きや介護保険外の地域資源を活用したサービス等の支援を行う。
 - ② 関係機関やインフォーマルサービスの情報をミーティング等により職員間で情報を共有し、利用者が安心して生活できる援助を行う。

ヘルパーステーション 九十九園（訪問介護）

- 1 職員定数 4名 管理者、サービス提供責任者、訪問介護員
- 2 事業運営
利用者が出来る限り、在宅で安心して自立した日常生活が送れるよう、日々の状態変化を把握し、サービス提供が行えるように努める。
- 3 基本計画
緊急時でも冷静に対応できるように、日々更新される情報を職員間で共有し各自がゆとりを持って、臨機応変に対応できるように努める。
- 4 基本姿勢
利用者の特徴に応じた様々なケースに対応できるよう、日常業務におけるサービスの特性と形態を理解して、専門職としての責任を持って行動をする。
- 5 資質向上
 - ① 訪問介護の持つ専門性を深める為に、最新の知識を学習する習慣をつけて職員一人ひとりのスキルアップを図る。
 - ② 研修や勉強会等を通じて、自分に足りない能力に気づき、新しい知識・技術・意識を高める為に、自分に合った学びの方法で習得する。

本部

- 1 職員定数 4名 施設長、事務職員
- 2 事業運営
行政改革や介護保険制度の改正による社会情勢の傾向を見極め、規程やマニュアル等の改訂に迅速に対応し、適正な事業運営に努める。
- 3 基本計画
経年劣化による建物や設備の更新が必要な部分は、インターネット活用の他関係機関や業者の情報をいち早く掴み、申請機会を逃さないように対応する。
- 4 基本姿勢
物価高騰により経費が増加し、水道光熱費、物品等の月々の経費が継続する部分を見直しや助成金の有効活用を利用し、中長期的な経営の安定を図る。
- 5 資質向上
 - ① 基本的な部分をしっかり押さえ、自ら考えられるよう答えを求めず、まずは自分で考え、答えを出す努力をすることで、個々のスキルアップや自信に繋げる。
 - ② 日々行っている業務内容をしっかり理解し、突発的な場面でも冷静に対応できる力を身に付け、業務に支障を来さないように努める。

令和6年度事業方針

部署	現状と課題	新年度方針	取組
特養 ショート	<p>① 業務が優先しており、決められた業務を淡々とこなす事が多く見受けられ、利用者に対しての声かけや関わり等の対応が疎かになっている。職員間でのコミュニケーションを十分に図れていない事もあり、単に業務をこなしている状況で円滑に業務が進行しない結果、利用者本位の支援が疎かになっている。</p> <p>② 日々の楽しみ、レクリエーションや各種行事において実施はしているが、職員の意識スキルの差が大きく、全体的に見て盛り上がり欠けている。</p> <p>③ 摂食機能低下のある方や認知症の進行で、食事の認識が低下されている方、看取りに近い方など、さまざまな幅広いケースが存在している。</p>	<p>① 職員同士が積極的にコミュニケーションを図り、円滑な業務の進行を熟す中でも利用者への明るく丁寧な声かけを行い、活気がある現場の雰囲気を作っていく。</p> <p>② 限られた施設生活の中でも、楽しみを感じたり、気分転換が図れるような活動を継続して実施し、利用者にとって楽しみのある、笑顔で過ごせる環境を作っていく。</p> <p>③ 状況変化や異常の早期発見により、誤嚥リスクの低減や低栄養の予防を図る。</p>	<p>① 日常業務の中で介助方法だけでなく、なぜそうするのか、根拠だてて理解できるよう助言や指導を日常的に実施し、かつ学ぶ機会をもって職員のスキル向上を図る。元気な挨拶、丁寧な言葉かけなどの基本的接遇や、介護技術と知識向上のため、施設内研修への積極的な参加を促し、学ぶ機会を確保する。</p> <p>② レクリエーションや行事などに対して、担当職員だけではなく、職員全員が当事者意識を持って取り組めるよう、相談や起案を行う。行事以外の空いた時間帯でも利用者との関わりを大切に、短時間でも楽しみが持てるように、日常の業務の中で助言や指導を行っていく。</p> <p>③ 普段とは少し違うという些細な気付きを多職種間で情報を共有することで、摂食機能の低下や異常の早期発見に繋げていく。</p>
ケア	<p>① 高齢化や疾患によるADLの低下や精神面による意欲低下がありQOLの維持、向上に支障をきたしている。</p> <p>② 精神的不安定、認知症状による理解、判断が難しく思い込みなどで、他者への疑いをもちトラブルに発展する可能性がある。</p>	<p>① 介護サービスの提案や、余暇活動の機会を設け、意欲的かつ活動的に日常生活を送れるように支援する。</p> <p>② 精神的な緩和を図るため、家族や他職種との連携を保ちながら、日頃から入居者との信頼関係を築き、心身の安定を目指す。</p>	<p>① 利用者の状態に合わせた介護サービスの提案や、カラオケや手芸などの余暇活動を定期的に行い、ADL・QOLの維持、向上に努める。</p> <p>② 日々の観察から、心身不安定の際には寄り添う行動を行い、精神的安定を図ると共にトラブルへ発展しないように努める。</p>
デイ	<p>① 一日の流れを維持し、利用者が参加したくなる工夫をしながら「身体の活動」や「頭の活動」をバランスよく取り入れ、メリハリのあるサービスを安定して提供する事が出来ているが、現状に満足してマンネリ化しないよう、利用者個々に寄り添ったケアや楽しみ作りについて考えていく必要がある。</p> <p>② 職員間の声掛けが定着しており、重大な事故もなく経過することができているが、回避できた軽微な事故も一部見受けられており、安全面に配慮し優先順位を付けて、対応する習慣が徹底出来ていない。職員全体で高齢者の心身状況に応じた介護ができるように、知識や技術を高め、よりの確な判断や根拠のある考えを念頭に、共通認識を持って習慣となるまで取り組んでいく必要がある。</p>	<p>① 基本的なサービスを軸に、利用者のニーズに応じた流れを保ちながら、可能な事には積極的に取り組み、今出来ている事にも改善点が無いのかを考え、レクリエーションや行事を通じて、より他者交流の活性化を図り、利用者の満足度を高める。</p> <p>② 介護の基礎部分の見直しや再確認を繰り返し、職員全体の介護技術の底上げを図り、優先順位を考えた行動を念頭に、利用者が安全に安心して過ごせるサービスを提供する。</p>	<p>① 日々の情報収集から他者交流が促進される座席環境を整え、利用者の興味や意欲の増進に繋がるレクリエーション活動の提供については、ミーティング等で反省や改善を繰り返すことで情報共有を図り、職員全員でサービスの充実に向け取り組んでいく。少しでも利用者と一緒に楽しみ、関わられる時間を作りだせるように、時間を有効活用していく。</p> <p>② 介護の基礎知識を日常的に学べるよう、課題を明確にして職員間での情報共有を図りながら、日々の指導やデイ研修等を通じて介護知識を増やせるように取り組み、一人一人が介護の意味を理解し、理由を考える習慣をつける。リーダー職員については、その理由をきちんと説明し、介護福祉士としての視点で適格に指導できるよう、自分の役割を考えて業務に当たれるように取り組んでいく。</p>
ヘル	<p>① 新規利用者への介護技術の知識不足がある。</p> <p>② 不測の事態が発生した時のスキルが欠しい。</p>	<p>① 自分に足りない能力に気づき、新しい知識・技術・意識を高める。</p> <p>② 緊急時でも冷静に対応できる情報を共有し、臨機応変に対応する。</p>	<p>① 利用者の身体の扱い方や自分自身の身体や福祉用具の使い方などを自分に合った学びの方法で習得する。</p> <p>② 「介護」について正しく理解し、常識的な考えを培う。</p>
支援	<p>① 介護保険制度が複雑になり、利用者・家族が理解出来ないため対応できず不安に思うことが多く見られる。</p> <p>② 病状に対しての理解が難しく、在宅生活を続けるのに対して、状態が落ち着かず自宅での生活に支障が出ることもある。</p>	<p>① 変わりゆく介護保険制度の理解を深め、制度改正への敏速な対応を行いスムーズに移行できるよう援助を行っていく。</p> <p>② 利用者の病状を利用者・家族が理解できるよう、主治医・相談員等と連携を図り安心して生活出来るよう援助を行っていく。</p>	<p>① 集団指導や研修等に参加することにより、変わりゆく介護保険制度を理解し、職員会議にて情報を共有する事で、利用者や家族に対して説明できるよう、質の向上を図っていく。</p> <p>② 主治医や相談員等と密に連携を図りながら、病状に対しての知識を深め、サービスの向上を図っていく。</p>
事務	<p>① 業務内容に対する理解が欠しく、単なる作業となってしまっている部分がある。</p> <p>② 物価高騰により経費が増している。</p>	<p>① 日々行っている業務の意味や内容をしっかり理解し、突発的な場面にも冷静に対応出来るようにする。</p> <p>② 助成金の活用は勿論のこと、新しい情報を素早くキャッチ出来るよう視野を広げる。</p>	<p>① 自ら考えられるよう答えを求めず、まず自分で考え答えを出す努力をし、自信に繋げる。</p> <p>② インターネットの活用その他、関係機関や業者とのやり取りの中で、情報をいち早く収集し申請を逃さないようにする。</p>